

令和4年度修了式 式辞

「学校行事・教育活動の場で「心構え」を形に表せる播特生」
ワールドベースボールクラシックで日本が優勝しました。
その歓喜の様子が報道されていました。
さて、スポーツの世界で活躍するトップアスリートたちがインタビューを受けているときに、「次に向けてよい準備をします。」と答えているのをよく見かけます。
このアスリートたちの言う「よい準備」とは何のことでしょうか？

イチロー選手の名言に、「準備というのは言い訳の材料となり得るものを排除していく、そのために考え得るすべてのことをこなしていく。」というのがあります。
イチロー選手といえは、試合後のスパイク磨きやグラブの手入れ、帰宅後食事前のトレーニング、食事への気遣い、試合前の入念なストレッチ、試合での打席に臨む動作、走塁や守備に至るすべての場面で「イチロー流（イチローイズム）」と呼ばれる完璧なまでの準備（＝ルーティン）を貫いていたことで有名です。
「言い訳を排除！」と言い放ち、「あのときやっておけばよかった。」と絶対に言い訳しない・できない環境に、常に身を置くイチロー選手のルーティンワークには、プロ意識の高さ、ぶれない心の強さを感じます。

イチロー選手を通して、「よい準備」とは、「心構え」の「習慣化」と「見える化」ではないかと思います。実は、本校で学ぶ皆さんも、この「心構え」という部分においてはイチロー選手に負けてはいないところがあります。
ひとつは「挨拶励行」。登下校時、学校で誰かにあったときに必ず大きな声であいさつしている姿です。次に、広い兵庫県ですが、県下各地から本校に学ぶ意思を持って通学（寄宿舎生活）する姿。そして、もう一つは、一番大事な勉強面での頑張りです。

普通科・職業科・総合ビジネス科生徒は、高等学校に準じた教科学習を中心に学び、寄宿舎生活をしながら身辺自立、そして自己の進路を切り拓くためにがんばっています。ビジネス検定や商業検定などにも積極的にチャレンジしスキルアップを図っています。
就業技術科生徒は「製作実習」で、実践的な学習を積み、職業自立に向けた姿勢や態度を学習に励んでいます。1年生、2年生、3年生ともに実に週12h履修し、立位作業の就労体験等を重ね「働く基礎」を築き上げ、その集大成として様々な実習を重ねて、就職に向かって頑張っています。

このように本校の教育課程は、「心構え」の「習慣化」と「見える化」への「学びの連続性」が図られています。
ぜひ、本校で学ぶ皆さんは一日一日の学びの積み重ねを大切にして、将来の社会自立をめざしてください。
生徒の皆さん、本年度教育課程の修了、おめでとうございます。
これで式辞とします。

（参考文献『イチロー流準備の極意』児玉光雄著 青春出版社）



令和5年3月23日

兵庫県立播磨特別支援学校
校長 下雅意 一之